

【めむろ未来ミーティング日程5】

令和7年1月9日（木）

15:00～15:55

- 参加者 11人
- 芽室町 町長、副町長、教育長
魅力創造課参事、農林課長
環境土木課長、政策推進課長
- 記録 広報広聴係長

■対応・検討が必要な事項

なし

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 町からの説明事項
 - 資料1 ゼロカーボンの取組
 - 資料2 新嵐山スカイパークのグランドデザインについて
- 4 意見交換

【意見】

資料1ページ目に、環境意識の醸成・災害対策の具体的な取組として「V2Hの設置・導入」とあるが、V2Hとは何か。

【副町長】

V2Hとは、電気自動車やハイブリッド自動車から住宅に電気を引き込む仕組みのこと。そのような車があっても住宅側で引き込み口がなければ電気を取れないので、そのような設備を作ること。平時も使用でき、災害時にも非常に有効と言われている。

【意見】

町で行うJクレジットの方策は、どのようなアプローチで考えているか。

【農林課長】

ゼロカーボンを目指すため、Co2排出量を減らすという取組が大前提にあるが、生活する中でCo2を一切出さないということは現実的に不可能である。その中で、太陽光発電や、森林が持つ二酸化炭素吸収量等でマイナスにすることでプラスマイナスゼロを目指すということがゼロカーボンの考え方。それらや再生可能エネルギー等をクレジット化して、民間企業や首都圏の自治体を買ってもらおうというのがJクレジットの制度。

今、芽室町で具体的に取組もうとしていることは、十勝広域森林組合と連携しながら、町が持っている町有林や森林組合が持つ森林による二酸化炭素吸収量をクレジット化して、それを買っていただく企業に売っていくということを考えている。

【町長】

企業も工場等で二酸化炭素を排出するが、できるだけゼロカーボン化したいと考えている。その時に、自分たちの力だけではなかなかできない部分もあるので、森林が吸収する分を購入して、企業自体もゼロカーボンを進めていくという流れがある。町にある森林を有効活用するため、町としてもそれに取組もうと考えている。

【意見】

先日研修を受けた際、木を炭にして、それを畑に埋めてカーボンマイナスの取組を進める方法というものを聞いた。実際にやるには現実的ではないという気もしたが、その辺りは考えているか。

【農林課長】

先ほど説明したとおり、町としてはまず森林が持つ二酸化炭素吸収量というところで取組を始める。今お話しがあったものはバイオ炭のことだと思うが、現時点では予定はないが、そのような取組も可能性を模索しながら広げていきたいと考えている。

【意見】

予定している補助事業として、再生可能エネルギー

導入の定置用蓄電池(既設住宅への設置)とあるが、今まで太陽光発電パネルをつけていた人でも可能なのか。

【町長】

可能である。今まで蓄電池の機能は進んでいなかった部分もあるが、だんだんと進んでいる。蓄電池によって太陽光で発電した電気を蓄えておくことができることは大きいと思うので、町としても推進し、普及促進、PR も兼ねて補助させていただこうと考えているところ。

補助率はまだ決まっていない。

【意見】

道路のことだが、0号は整備されて走りやすくなったが、点滅信号のある7線は、今の車は大きくなっているため、橋などが狭く感じる。見通しも悪く人影もないような道路なので、不法投棄もしやすいのか非常に多い。お金がかかることは理解しているが、道路整備等を検討いただきたい。

【町長】

橋は課題になっていて、前に一度土地改良事業でできないか検討したことはあるが、準備段階で採択されない形で難しかった。ただ、狭くて大型機械同士はすれ違えないということも理解している。

【意見】

曲がりくねっていて見通しも悪いので出合い頭の衝突も怖い。通勤道路としての通行も増えているので、優先順位は高いのではないかと思う。

【環境土木課長】

南7線の橋については過去から要望をいただいている箇所である。橋だけ広くするわけにもいかず、全体に絡んでくることもあり、費用的にも厳しい状態である。ただ、老朽化しているため、今年度に改修に係る調査及び設計を実施した。改修時期は未定だが、老朽部分の補強改修を今後実施していきたい。

また、橋を渡ってから上り坂の箇所の不法投棄が

非常に多いため、町としても捨てられない環境をつくるため、こまめに草刈りを実施しているほか、年2回行っているクリーンアクションめむろにおいてもごみ拾いの場所として設定して実施している状況。一人捨てるのとそれに続いて捨てる人が多くなるので対応に苦慮している部分はあるが、こまめに確認しながら引き続き捨てられない環境を作っていきたい。

【意見】

大体捨てている人は同じような人だと思うので、物が動くと撮影が開始されるような監視カメラを設置してはどうか。

【環境土木課長】

監視カメラは以前、高規格道路の下の場所につけたことがある。動きを感知すると電源が入り撮影を開始するもので、動物等にも使える。ただ、小さなポイ捨て等が多く、その度にカメラが撮影するため容量が圧迫される状態だったため、今ほどのようなカメラが適しているのか調査しているところだが、移動式カメラなので、捨てられやすい箇所に設置することはできる。

【町長】

不法投棄しているタイミング等を、車のナンバーも含めてしっかり撮影できれば証拠になってくる。過去には名前を書いてあるごみが捨てられていて、特定できたため検挙された例もある。特定できれば毅然としてやっていかなければならない。例えばマスコミ等に情報提供することも PR の方策だと思うので、考えていきたい。

【意見】

ごみを捨てるなというだけの看板ではなく、ここで不法投棄により何人検挙されたというようなことを書いた看板を設置することで抑制になるかもしれない。

【意見】

点滅信号がなくなる場所があるが、その交差点に、段差のあるアスファルトを設置してほしい。止まれの看

板も輝きの良い看板をつけるという話だが、もう少し大きい看板をつけてもらいたい。町道だと思うので、つけるなら町でつける必要があると思っている。

【環境土木課長】

今言われた交差点の南北の道路は道道になるが、交差する箇所は町道なので、一時停止の段差のあるアスファルトについては要望として承りたい。また、安全対策として設置しているパトランプは撤去せずそのまま継続する。

【町長】

予算も含めて検討したい。

15時55分終了

